

腹腔鏡内視鏡
合同手術研究会
Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第18回 2018年10月31日

■ 11-JP 当院における胃 GIST に対する切除術の変遷
Changes of resection method for gastric GIST.

代表演者：七條智聖（大阪国際がんセンター消化管内科）

Speaker: Satoki Shichijo, M.D., Osaka International Cancer Institute, Department of Gastrointestinal Oncology

共同演者：[大阪国際がんセンター消化管内科] 上堂文也

[大阪国際がんセンター消化管外科] 柳本喜智、山本和義、大森健

【目的】切除可能な胃 GIST の治療の第一選択は外科的完全切除であり（GIST 診療ガイドライン、2014 年改訂、第 3 版）、現在は腹腔鏡下手術、ないしは腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）を主に行っているが、腹腔鏡なしに経口内視鏡のみで切除できた症例も経験している。年代別の GIST 治療法の変遷について検討する。

【方法】2005 年 10 月から 2018 年 2 月までに初発の胃 GIST に対して切除が行われた（切除検体の病理診断が GIST であった）症例の治療方法を検討した。胃 GIST に対する治療が癌に対する切除術と同時に施行された症例は除外した。

【結果】期間中に 115 例が胃 GIST 切除術を施行されていた。そのうち癌に対する切除術を同時に受けていた 33 例を除いた 82 例を検討した。腹腔鏡下胃局所切除術 57 例、LECS 16 例、経口内視鏡切除 6 例、開腹胃局所切除 3 例だった。46 例が内腔突出型、36 例が壁外突出型の腫瘍であった。経口内視鏡切除は全例内腔突出型の腫瘍に対して施行され、6 例中 5 例が 2016 年以降に施行されていた。LECS は 2008 年以降コンスタントに施行されており、10 例 (63%) が体上部の病変、15 例 (94%) が内腔突出型の腫瘍に施行されていた。

【考察】より低侵襲な治療（LECS、経口内視鏡切除）の占める割合が増加してきており、今後体上部の内腔発育型 GIST への適応の確立が期待される。